

在宅研修用 審判技術向上研修資料 ～第46回日本ハンドボールリーグ担当レフェリー第2回研修会課題より～

2021年9月15日（公財）日本ハンドボール協会 競技・審判本部

（公財）日本ハンドボール協会審判本部では、コロナ禍におけるレフェリー・チーム関係者の在宅研修の資料として、「第46回日本ハンドボールリーグの担当レフェリー研修会」で使用しました映像（JHL 審判委員会見解・解説入り）をYouTubeにて配信いたします。

実際の映像研修では、まず、提示された試合開始から15分程度の映像に対し、「レフェリーペアとしてどのように立ち居振る舞い、判定基準を伝えていくか」をテーマにペアとして分析し、所定のシートに記入します。次にその分析内容を他のペアに転送し、分析に対してコメントを記載します。最後にコメントされたものにJHL 審判委員会からの見解を加え、ペアへ返送します。同じ映像に対し、様々な視点で分析を行いながら試合前半立ち上がりにおけるレフェリングのあり方について研修しました。この研修会の通知文には、以下の内容を記載しました。

分析の視点は、「**審判員の心得 10 箇条**」の「**①リーダーシップ**」と関連し、
「ゲームをコントロールするために、試合開始直後からチームに対し、リーダーシップを発揮して、基準をどのようにして伝えていくべきか」
です。その中には、事実判定正しく判定することだけでなく、プレーが展開している中でレフェリーとしてプレーヤーやチームとどのようにコミュニケーションを取っていくかということも求められます。また、その場面でコートレフェリーとして、ゴールレフェリーとしてどのような点に注意しておくべきかについて考えることも必要となります。

最近のハンドボールのレフェリングのスタイルは、当然として求められる「事象を正しく見極める」だけでなく「**違反を起こさせないように、レフェリーとして『予防的』な立ち居振る舞いをする**」ことが求められています。ここにも、スピーディーな流れで、試合をなるべく中断させないというモダンハンドボールの考え方が生きています。**レフェリーからの「積極的な情報発信」**が必要になります。JHL 担当レフェリーは国内、各ブロックのトップレフェリーです。この研修を受け、試合の中で実践していくことを通して、国内のハンドボール関係者へ現在のハンドボールのレフェリングのスタイルを発信していただけることを期待しています。

以下に URL を記載します。

試合を流しながら、その場面における「レフェリーとしての留意点をテロップ」→「その場面のリプレイ」→「その後の試合」といった流れで進んでいきます。前半15分間の内容ですが、見解入りですので、男女各30分の映像となります。

男子試合（約28分） <https://youtu.be/IYNuFAWSK98>

女子試合（約30分） <https://youtu.be/mZDbzd6kzG4>